

# 本県の特別支援教育の現状

令和5（2023）年8月28日（月）  
栃木県教育委員会事務局特別支援教育課

1

1

## 本県の特別支援教育の現状

- I 特別支援教育について
- II 県立特別支援学校の状況
- III 栃木県特別支援教育推進計画
- IV 幼児児童生徒の生活指導について
- V 家庭、教育、福祉の連携について

2

2

## I 特別支援教育について

### 〈特別支援教育の理念〉

- ・ 障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。
- ・ 発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるもの。
- ・ 障害のある幼児児童生徒への教育にとどまらず、障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるもの。

特別支援教育の推進について（平成19年 文部科学省通知） 3

3

## 特別支援教育における「多様な学びの場」

一人一人の子どもの教育的ニーズに応える  
連続性のある「多様な学びの場」

### 〔小・中学校等〕

#### 〔通常の学級〕

##### 通級による指導

視覚障害 聴覚障害  
肢体不自由  
病弱・身体虚弱 言語障害  
自閉症 情緒障害  
学習障害  
注意欠陥多動性障害

#### 〔特別支援学級〕

視覚障害  
聴覚障害  
知的障害  
肢体不自由  
病弱・身体虚弱  
言語障害  
自閉症・情緒障害

### 〔特別支援学校〕

視覚障害  
聴覚障害  
知的障害  
肢体不自由  
病弱・身体虚弱

※高等学校でも、必要に応じて「通級による指導」を実施

4

個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用した指導・支援

### 平成の〇〇年度 個別的教育支援計画

(小)学 第〇期別開校式支度書 第 〇 学年児童の(別)

#### 支援機関一覧

各課所属において、教育機関との連携の体制を構築し、役割分担を明確にします。

#### 指導計画

子どもの実態と指導の目標や方針を、各課の支援者に入ります。  
定期的に指導の評価と改善を行います。その記録が子どもの成長の記録となります。

所属の他に、学級担任が記入します。

学級担任、学級担任が記入します。

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

※学級担任・学年主任は、制定された実態の状況や学年にて記入していただきます。

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

※学級担任・学年主任は、制定された実態の状況や学年にて記入していただきます。

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

学年	姓	名	所属	担当	担当の役割
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施
児童	山田	太郎	特別支援科	担当	個別教育支援計画の作成・実施

※学級担任・学年主任は、制定された実態の状況や学年にて記入していただきます。

※学級担任・学年主任は、制定された実態の状況や学年にて記入していただきます。

※リーフレット参照

個別の教育支援計画・個別の指導計画を活用した指導・支援

名称	個別の教育支援計画	個別の指導計画
主な目的	・関係機関と子どもの支援情報を共有し、役割分担を明確にすることで連携を図りつつ、就学前から学校卒業後まで一貫した支援を行うために作成・活用	・個々の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にし、きめ細かな指導をするために作成・活用
主な内容	・各年齢段階における関係機関等による支援 等	・本人、保護者の願い、子どもの実態、指導目標・内容・方法、合理的配慮 等

## Ⅱ 県立特別支援学校の状況

- 1 設置状況
- 2 通学圏等
- 3 在籍者数

7

7

### 1 県立特別支援学校の設置状況

対 象	学 校	設置学部				所在地
		幼	小	中	高	
視覚障害	盲	○	○	○	○	宇都宮市
聴覚障害	聾	○	○	○	○	宇都宮市
肢体 不自由	のざわ		○	○	○	宇都宮市
	わかくさ		○	○		宇都宮市
	栃木		○	○	○	栃木市
病弱	岡本		○	○	○	宇都宮市
	栃木		○	○		栃木市
	足利		○	○	○	足利市

8

対象	学 校	設置学部			所在地
		小	中	高	
知的障害	富屋(本校)	○	○	○	宇都宮市
	(鹿沼分校)	○	○		鹿沼市
	宇都宮青葉			○	宇都宮市
	今市	○	○	○	日光市
	国分寺	○	○	○	下野市
	栃木	○	○	○	栃木市
	足利中央	○	○	○	足利市
	益子	○	○	○	益子町
	那須	○	○	○	那須塩原市
	南那須	○	○	○	那須烏山市

9

## 2 通学圏等

学 校 名		通 学 圏	スクールバス	寄 宿 舎
盲、聾、のざわ		県内全域	○	○
わかくさ(リハセン併設) 岡本(宇都宮病院併設) (自治医大分教室) 足利(足利病院併設) 青葉(高等特別支援学校)		県内全域		
富屋		宇都宮市	○	
鹿沼分校(小・中学部)		鹿沼市	○	
今市		日光市 塩谷町 鹿沼市の北部	○	
国分寺		上三川町 野木町 小山市 下野市	○	
栃木	【知的部門】	壬生町 栃木市 鹿沼市の南部	○	○
	【肢体部門】	壬生町 栃木市 鹿沼市の南部 下野市 野木町 小山市	○	
	【病弱部門】	県内全域(獨協医大分教室)		
足利中央		佐野市 足利市	○	
益子		真岡市 益子町 茂木町 市貝町 芳賀町	○	
那須		矢板市 大田原市 那須町 那須塩原市	○	○
南那須		さくら市 那須烏山市 高根沢町 那珂川町	○	

10

10

### 3 県立特別支援学校在籍者数(令和5年度 5月1日現在)

障害種	学校名	在籍者数
視覚障害	盲	29
聴覚障害	聾	60
肢体不自由	のざわ	119
	わかくさ	26
	栃木	53
病弱	岡本	46
	栃木	6
	足利	38
視覚障害・聴覚障害・ 肢体不自由・病弱 合計		288

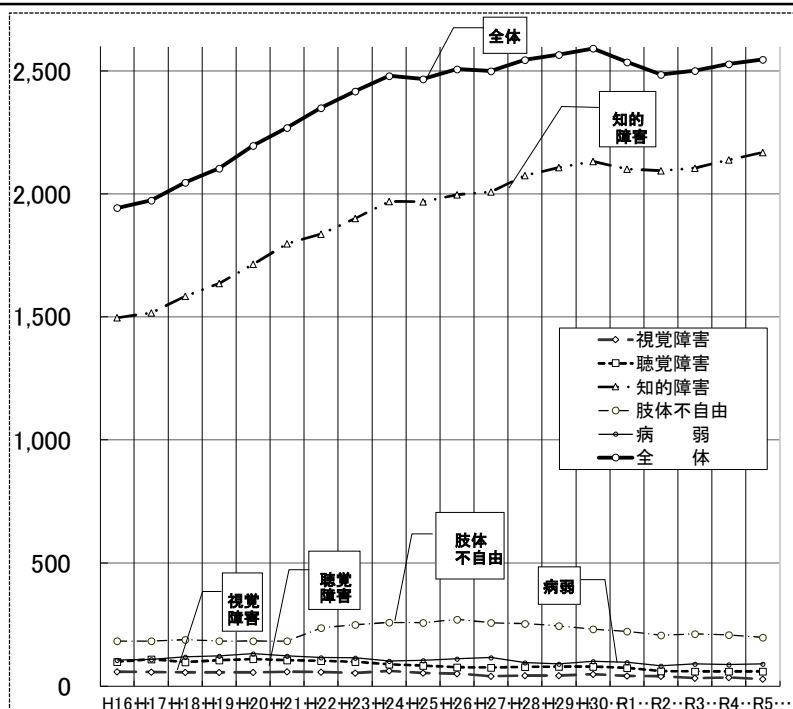
障害種	学校名	在籍者数
知的障害	富屋	382
	鹿沼分校	62
	青葉	222
	今市	90
	国分寺	280
	栃木	190
	足利中央	279
	益子	203
	那須	310
	南那須	151
知的障害 合計		2169
合計		2546

11

11

### 県立特別支援学校在籍者数の推移

- ・知的障害は  
増加傾向  
(近年は微増微減)



12

### Ⅲ 栃木県特別支援教育推進計画

栃木県教育委員会 令和3年2月

#### 〈策定の趣旨〉

「栃木県教育振興基本計画2025」の  
特別支援教育分野における計画として策定

#### 〈計画の柱〉

- 1 教員の特別支援教育に関する理解促進と  
実践的な指導力の向上
- 2 就学前から学校卒業後までの一貫した支援体制の構築
- 3 教育の基盤整備

#### 〈計画の期間〉

令和3年度から令和7年度までの5年間



13

13

### 栃木県特別支援教育推進計画

- 1 教員の特別支援教育に関する  
理解促進と実践的な指導力の向上

- ・個別の教育支援計画を活用した  
指導・支援の充実
- ・自立活動の指導の充実
- ・ICTを活用した指導・支援の充実

- 2 就学前から学校卒業後までの  
一貫した支援体制の構築

- ・家庭や福祉等の関係機関との  
連携の推進

#### 本検討会の検討事項

- 1 幼児児童生徒の  
生活指導
- 2 家庭、教育、福祉  
の連携

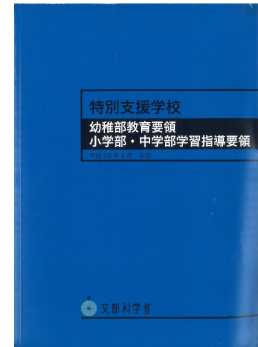
14

14

## IV 幼児児童生徒の生活指導について

### 「特別支援学校学習指導要領」

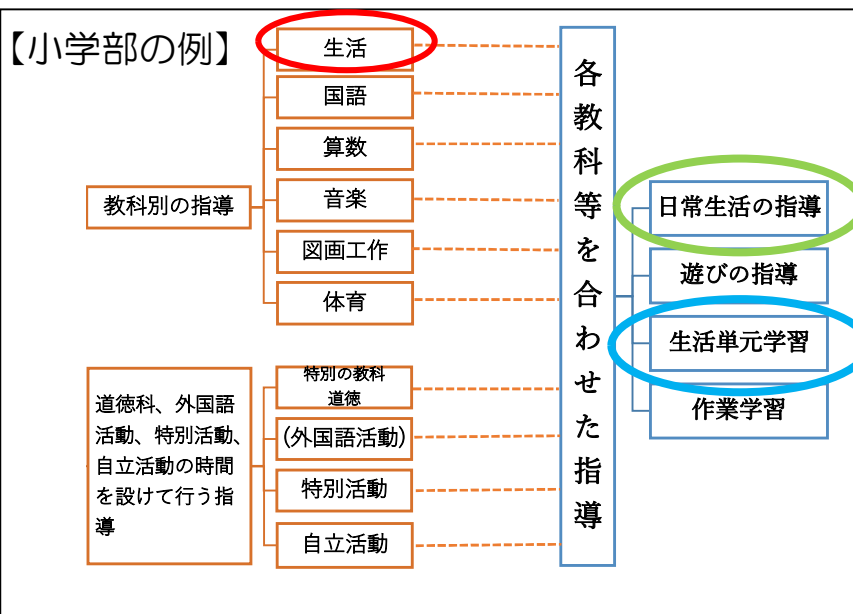
- ・ 全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準
- ・ 各教科等について、目標、内容のほか、配慮事項等について規定



15

15

### 特別支援学校(知的障害)における生活指導の形態



- ・ 学習や生活の流れに即して学ぶことが効果的な場合、「生活科」など教科別でなく、「日常生活の指導」など、各教科等を合わせた指導が行われている。

16



例

## 小学部通常の学級6年 日課時間割

	月	火	水	木	金
9:00	日常生活の指導				
9:40	体 育	国語/算数	国語/算数	体 育	国語/算数
10:20	国語/算数	生活単元学習	生活単元学習	国語/算数	生活単元学習
11:10	生活単元学習	生活単元学習	音 楽	自立活動	生活単元学習
12:05	日常生活の指導（給食）				
13:05	下校 13:20	図画工作	生活単元学習	音 楽	下校 13:20
13:50		国語/算数	日常生活の指導	国語/算数	
14:40		ゆとり	下校 14:15	ゆとり	
		日常生活の指導		日常生活の指導	
	下校 15:10		下校 15:10		

17

17

## 日常生活の指導

- ・特徴 : 日常生活の諸活動について学習する
- ・扱われる教科等 : 生活科を中心とし、特別活動などの各教科等
- ・主な学習活動 : 衣服の着脱、洗面、手洗い、排泄、食事、清潔、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法、時間やきまりを守る 等

〈指導に当たって考慮すべき点(要約)〉

- ・实际的で必然性のある状況下で、生活の文脈に即した学習ができるようにする
- ・毎日反復し、習慣化していく指導の段階を経て、発展的な内容を取り扱う
- ・できつつあることや意欲的な面を考慮しつつ、学習状況等に応じて課題を細分化し段階的な指導を行う
- ・学校と家庭との双方向で、児童生徒の取組など、学習状況等を共有し、指導の充実を図る 等



18

18

## ICTを活用した指導(歯磨き動画の例)



- ・子どもたちが分かりやすい動画教材を作成し、毎日、動画に合わせて歯磨きを実施。
- ・共通のツールとして家庭や関係機関との共有も可能

19

## 生活単元学習

- ・特徴 : 一連の活動を経験し、**自立や社会参加に必要な事柄を实际的に学習**する
- ・扱われる教科等 : 各教科等を広範囲に扱う
- ・学習活動例 : 学期末のお楽しみ会に向けた買い物、調理  
校内宿泊学習 等

〈指導に当たって考慮すべき点(要約)〉

- ・**実際の生活から発展**し、生活上の目標や課題に沿って指導目標や指導内容を組織する
- ・身に付けたものが**現在や将来の生活に生かされるものにする**
- ・個々の児童生徒が力を発揮し、**様々な役割を担い、単元の活動に協働して取り組めるものにする**



20

20

## 年間指導計画例(中学部1年 生活単元学習)

①知識及び技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力

月	単元・題材名	ねらい	①	②	③	主な指導内容	関連教科	時数
9月	新しい学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの出来事を振り返ったり、発表したりすることができる。</li> <li>・自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりすることができる。</li> <li>・2学期の行事を知ることができる。</li> <li>・2学期の目標を立てることができる。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みの出来事を発表する。</li> <li>・2学期の予定表作り</li> <li>・2学期の目標決め</li> </ul>	国語、数学、社会	6
10月	校内宿泊学習をしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊に必要な事柄について知り、実践することができる。</li> <li>・簡単な調理の仕方について知ることができる。</li> <li>・自分の役割を自覚し、集団の中で役目を果たすことができる。</li> <li>・友達と協力して活動することができる。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊学習の内容、荷物確認</li> <li>・簡単な調理</li> <li>・宿泊学習の係分担</li> <li>・宿泊学習の決まり、約束事</li> </ul>	国語、数学、職業家庭、理科、社会、道徳	16
	生活に必要なスキルを身に付けよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活するためにはどんなことがあるのか知ることができる。(衣食住)</li> <li>・布団敷きや入浴など実践することができる。</li> </ul>	○	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣食住</li> <li>・宿泊学習に必要な事柄の実践</li> </ul>		

21

### 【生活訓練施設】

日常生活の諸活動を  
体験的に学習できる校内の宿泊施設

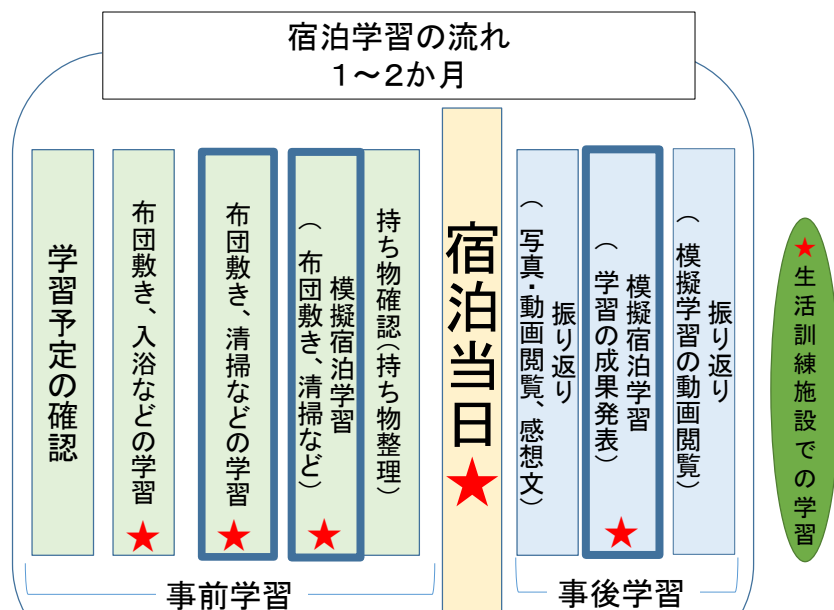
日常の  
授業で

校内宿泊  
学習で



22

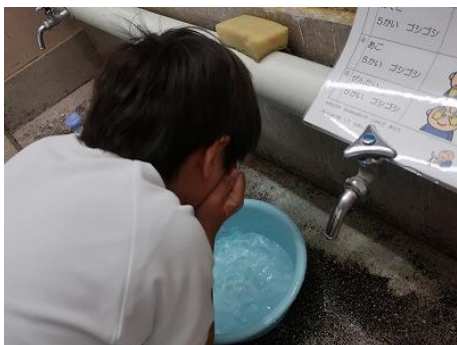
例



年間を通して生活訓練施設を活用し、  
他の授業でも、清掃、洗濯、調理等、小・中・高で系統的に学習

23

## 体験的な学習の積み重ね



小学部3年生「洗顔」



小学部5年生「入浴」

24

## 体験的な学習の積み重ね



中学部 1 年生「布団敷き」

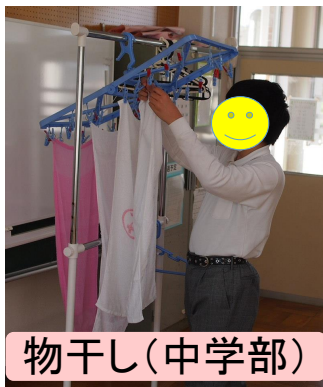


中学部 3 年生「調理」

25

## 職業・家庭(中学部)、家庭科(高等部)

- ・特徴 : 衣食住などに関する実践的・体験的な学習する
- ・主な学習活動 : 調理、衣服の着用と手入れ、快適な住まい方 等



物干し(中学部)



洗濯(高等部)

26

26

## 児童生徒の成長（保護者の声）

- ・学校で教わった体の洗い方を家でもやっています。
- ・当番活動の配膳など、子どもができることを自分で決め、取り組んだことで自信が育ち、家でもやってくれるようになりました。
- ・本人が分かりやすい指導をしてくださり、子どもが自分から動けるよう見守ってくれたことで、できることが徐々に増えてきました。

27

## V 家庭、教育、福祉との連携について

### （1）福祉との連携

在学中から学校と福祉が連携し、地域で安心して生活できるようにする

#### 主な連携先

- ・障害福祉サービス事業所  
（放課後等デイサービス、就労継続支援（A型・B型）等）
  - ・市町の保健福祉担当課
  - ・障害者就業・生活支援センター
  - ・児童相談所
- 等

28

28



## 本県の障害福祉サービス事業所数の変化

### 【放課後等デイサービス施設数】

H24	R5
28	323

※放課後等デイサービスは、  
H24年創設。小・中学部の  
8～9割の児童生徒が利用。

### 【短期入所（児童対象）施設数】

H24	R5
42	93

※短期入所の児童生徒の  
利用の割合は数%。

「栃木県障害者福祉ガイド」、県HPより抽出

29

29

## 子どもの支援について話し合う連携会議の例



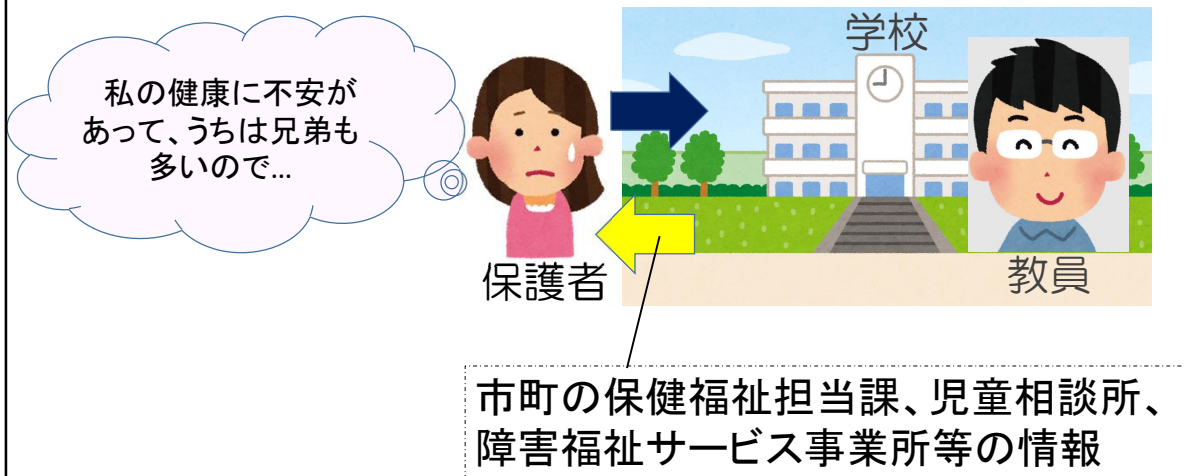
学校と福祉事業所担当者が、一人一人の支援について話し合い、支援情報を共有する。

※放課後等デイサービス、日中一時支援、短期入所 等

30

30

## 必要な支援につなぐ情報提供の例



- ・養育上の不安がある保護者の話を伺い、必要な支援につなぐ
- ・市町の福祉に係る会議に学校が参加、情報共有

31

31

## 高等部卒業後に向けた、企業、福祉事業所等との連携

### 〔産業現場等における実習〕

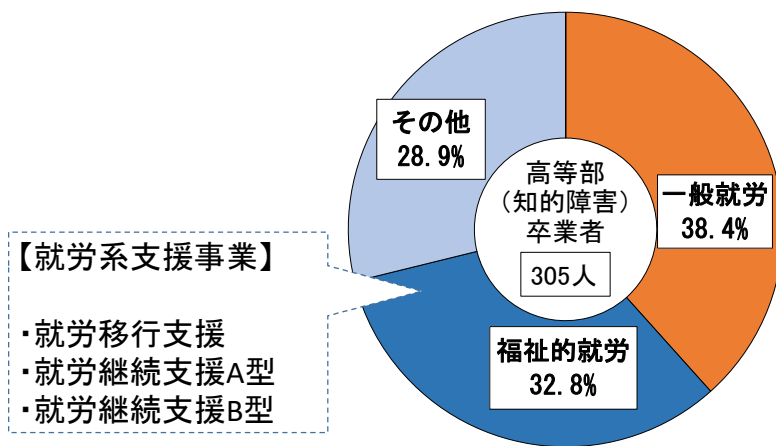
○企業や福祉事業所などで一定期間、終日活動することとおして、適性を確かめ、将来の生活に必要な能力や態度等を身に付ける。

- ・主に高等部2、3年で、各2回程度実施
- ・期間は1～2週間
- ・適宜、教員が巡回指導

32



## 特別支援学校高等部(知的障害)卒業者の進路状況 (R5(2023)年3月卒)



一般就労(企業等)38.4%＋福祉的就労32.8%＝71.2%

33

33

## (2) 家庭との連携

- ・連絡帳等により、担任と保護者が、児童生徒の日々の成長や、個に応じた関わり方などについて、情報を交換。
- ・学期ごとなど定期的に、また、保護者の希望に応じて、個別懇談を実施。  
(個別の指導計画等の活用)

34

34

## 保護者の声(連絡帳より) ～授業で「テーブル拭き」の指導を実施後～

- ・家でも、ダイニングテーブルを拭いてくれるようになって嬉しいです。
- ・テーブル拭きを、お手伝いすることを自分で決めて、今でも継続しています。

### 【連絡帳の例】

月		日		曜日	
家庭からの連絡				学校からの連絡	
寝た時刻	:	起きた時刻	:	今日の学習	1 着替え・朝の会
健康状態	良・不良( )				2
排便	有・無	時頃			3
朝食	良 普通 無				4
夕食	良 普通 無				5 給食
その他(特記事項)					6
					7 帰りの会
持たせた物				持たせた物	
下校方法 ・スクールバス ・デイスサービス( )				・迎え( 時頃)	

35

35

## 例 「学びのあしあと確認表」を活用した家庭との連携

A: 支援者と一緒に行おうとすることができる  
 B: できるだけ自分で行おうとすることができる  
 C: 自分から行おうとすることができる

学びのあしあと確認表				学びの度合			重点取組 年・学期
重点内容	目安の 教科	段階	チェック項目	A	B	C	
食事	生活	小 I	給食を食べることができる				
	生活	小 I	スプーン・フォークで食べることができる				
	生活	小 I	箸を使って食べることができる				
	生活	小 I	箸を正しく持って食べることができる				
	生活	小 I	食器を持って食べることができる				

36

# 家庭・教育・福祉の連携 「トライアングル」プロジェクト報告

・参考資料5参照

